

## 2023 年の世界の生乳生産量は 2 年連続の低成長、乳製品貿易量は昨年並みで予測

FAO「食料アウトルック」2023 年 6 月号より

国連食糧農業機関 (FAO) は、世界の農産物需給などの概況を見通す「食料アウトルック (Food Outlook)」報告書を毎年 2 回公表している。6 月 15 日に公表された最新報告では、乳・乳製品の市場動向について、2023 年の世界の生乳生産量を 2 年連続の低成長となる前年比 0.9% 増の 9 億 4400 万トンと予測した。これは、生乳生産が、アジア、北米を中心に増加する一方、欧州連合 (EU)、オセアニアで減少する見込みのためである。また世界の乳製品貿易量は、2023 年には約 8500 万トン (生乳換算) となり、昨年水準から停滞すると予測した。これは国内産の増加と全粉乳の在庫増などによる中国の輸入減少により、中米、中東、東南アジアでの輸入増加が相殺されたことが主な要因である。一方で、多くの開発途上国では、厳しい経済状況、通貨安、外貨建取引の制限によって輸入が制約される可能性がある。最も広く利用されるインフレ指標である消費者物価指数 (CPI) は、2021 年以降、ここ数十年で見られなかったレベルまで上昇している。インフレの継続は、マクロ経済の長期的な繁栄を妨げる。また、重大なことは、食料価格の上昇が社会不安を招き、貧困や食料不安と闘う努力を無駄にしてしまうことであると警告している。

以下では、報告書の中から乳・乳製品の市場動向とニュースリリースの概要を紹介する。

### 【食料アウトルック】(\*1)

#### 乳・乳製品の市場動向

2023 年の世界の生乳生産量は、2 年連続の低成長となる前年比 0.9% 増の 9 億 4400 万トンと予測される (表 1)。南米、アフリカ、ヨーロッパ、オセ

アニアの生乳生産量が前年比で大幅に減少し、アジア、北米、中米の拡大が限定的となることが予想され、これがその通りであれば、2 年連続の低成長となる。インドとパキスタンにおける乳量と牛頭数の増加、および中国の大規模酪農場における高い

表 1. 世界の乳・乳製品市場の概観(\*1)

世界総量	2021 年	2022 年 (推定)	2023 年 (予測)	増減(%): 2023 年/ 2022 年
総生乳生産量 (百万 t)	931.1	935.9	944.0	0.9
総貿易量 (生乳換算百万 t) <sup>1</sup>	88.6	84.6	85.0	0.5
<b>1 人当たり消費量</b>				
世界 (kg/年)	117.7	117.4	117.4	0.0
貿易のシェア (%)	9.5	9.0	9.0	-0.4
<b>FAO 乳製品価格指数</b> (2014~2016 年=100)	<b>2021 年</b>	<b>2022 年</b>	<b>2023 年 1~5 月</b>	<b>増減(%): 2023 年 1~5 月/2022 年 1~5 月</b>
	119	142	126	-11.1

生産量が、アジアの生乳生産量拡大の原動力となりそうである。北米では、生産者の利益が低下し、補助金による乳牛頭数削減の可能性があるにもかかわらず、個体乳量と乳牛頭数の増加により生乳生産量が増加すると考えられる。中米では、継続的な管理システムと技術の向上が生産量の増加をもたらし、中でもメキシコが生乳生産量の拡大を牽引すると見られる。2023年に予想される生産量減少の要因は、主に生産者の利益の低下、異常気

象の影響、その他の条件(特に労働力不足)である。

中米、北アフリカ、中東、東南アジアでの輸入需要の増加は、中国、EU、マレーシアなどの輸入減少によって相殺される可能性が高く、2023年の世界の乳製品貿易は8500万トン(生乳換算)となり、2022年水準で停滞すると予測される。中国の輸入縮小は、国内の生乳生産量が増加し、特に全粉乳の在庫が多くなっていることが背景にある。多くの

表2. 乳製品の国際価格およびFAO乳製品価格指数(\*1)

期間	国際価格(米ドル/t)				FAO乳製品価格 指数(2014~2016 年=100)
	バター <sup>1</sup>	脱脂粉乳 <sup>2</sup>	全粉乳 <sup>3</sup>	チェダー チーズ <sup>4</sup>	
<b>年次(1~12月)</b>					
2012年	3 740	3 063	3 336	3 877	112
2013年	4 784	4 148	4 730	4 563	141
2014年	4 278	3 606	3 854	4 542	130
2015年	3 306	2 089	2 537	3 076	87
2016年	3 473	1 986	2 481	2 807	83
2017年	5 641	2 011	3 163	3 664	108
2018年	5 587	1 834	3 060	3 736	107
2019年	4 443	2 440	3 186	3 435	103
2020年	3 844	2 606	3 041	3 506	102
2021年	4 995	3 181	3 855	3 816	119
2022年	6 608	3 863	4 253	4 535	142
<b>月次</b>					
2022年5月	7 008	4 228	4 388	4 370	144
2022年6月	7 133	4 261	4 532	4 659	150
2022年7月	6 793	3 974	4 326	4 687	146
2022年8月	6 610	3 702	4 011	4 756	143
2022年9月	6 555	3 661	3 982	4 753	143
2022年10月	6 268	3 464	3 893	4 706	139
2022年11月	6 079	3 151	3 750	4 803	137
2022年12月	5 740	3 132	3 714	4 963	138
2023年1月	5 290	2 915	3 507	4 986	135
2023年2月	4 968	2 781	3 424	4 809	129
2023年3月	5 021	2 737	3 410	4 652	127
2023年4月	5 018	2 671	3 282	4 455	123
2023年5月	5 048	2 730	3 423	4 119	119

<sup>1</sup>バター:乳脂肪 82%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

<sup>2</sup>脱脂粉乳:乳脂肪 1.25%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

<sup>3</sup>全脂粉乳:乳脂肪 26%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

<sup>4</sup>チェダーチーズ、最大水分 39%、FOB オセアニア・EU、平均表示取引価格

注:FAO乳製品価格指数は、国際的に取引されているEUとオセアニアの代表的な乳製品の貿易加重平均から算出される。

開発途上国では、厳しい経済状況、通貨安、外貨建取引の制限によって輸入が制約される可能性がある。これらの縮小は、特にアルジェリア、メキシコ、オーストラリア、インドネシアなど、国内の生乳供給量を上回る食品加工業界の需要増に牽引された数ヶ国による輸入増によって部分的に相殺されると予想される。

FAO 乳製品価格指数の5月の平均値は118.7で、過去8年間で最高値を記録した2022年6月から21%低下した(表2)。主要輸出国からの供給が逼迫しているにもかかわらず、世界の輸入需要、主にスポット取引が低迷していることを反映し、国際乳製品価格は下落傾向にある。

### 【ニュースリリース】(\*2)

#### 世界の生産量は拡大傾向にあるが、経済的に脆弱な国の輸入減少の懸念を指摘

今回の報告書によると、世界の食料輸入額は2022年には11%、2021年には18%上昇した。2023年は2022年から1.5%増の1兆9800億米ドルの新記録を達成すると予測されている。FAOは、「果物、野菜、砂糖、乳製品の相場上昇に伴う世界価格の上昇が特に経済的に脆弱な国々での需要を減少させるため、世界の食料輸入額は今年、過去最高を更新すると予測されるものの、その成長ペースは昨年に比べかなり緩やかなものになると予測されている。」と述べている。

FAOは、先進国の食料輸入が拡大を続ける一方で、後発開発途上国(LDCs)グループの輸入額は今年1.5%減少し、食料純輸入開発途上国(NFIDCs)グループの輸入額は4.9%減少すると予測している。「食料輸入量の減少は、両グループにおいて懸念される事態であり、購買力の低下を示している。これらの懸念は、多くの主要食料品目の国際価格の低下が、各国内の小売レベルでの価格低下に結びついていないか、少なくとも完全には結びついていないという事実によって増幅され、

2023年に生活費への圧力が持続する可能性を示唆している」と警告している。

FAOのこの報告書の最新版では、NFIDCsの消費者物価指数の食品部分の最近の変化と、通貨の動き、なかでも農産物貿易の多くの取引に使われる米ドルとの関係が、これらの国々の食品価格インフレにどのように影響するかを検討する特別章が設けられている。2007~08年の世界的な食料危機の際の米ドル安は、食料輸入国が食料価格の上昇を相殺するのに役立ったが、最近はその効果が顕著である。例えば、世界のトウモロコシ価格は2022年4~9月の間に10.2%下落したが、NFIDCsの現地通貨で計算すると平均4.8%しか下落しなかった。

この章を執筆したFAOシニアエコノミストは、「このことは、インフレに対抗するための適切な介入の重要性を強調している。そうでなければ、食料価格の上昇は社会不安や財政難を招き、貧困や食料不安と闘うこれまでの努力や達成した進歩を一掃してしまう」と警告している。

#### 重要ポイント

- 米、粗粒穀物、油糧種子、牛乳乳製品、砂糖、食肉、水産物を含むほとんどのカテゴリーで生産が増加する可能性があるが、世界の小麦生産量は昨シーズンの史上最高だった出来高から減少する可能性があるという指摘。
- このような概して明るい見通しにもかかわらず、世界の農産物生産システムは、異常気象、地政学的な緊張、政策の変更、他の商品市場の動向などに起因するショックに対して脆弱であり、微妙な需給バランスを崩して価格と世界の食料安全保障に影響を与える可能性があることには変わりはない。
- 2023年の世界の小麦生産量は、史上最高となった2022年の7億7700万トンから3.0%減少すると予想される。これは主に、2022年に過去

最高の生産量を記録したロシア連邦とオーストラリアにおいて異常気象の影響で減少が見込まれるためである。

- 世界の粗粒穀物生産量は、米国のトウモロコシの大幅な増産とブラジルの記録的な収穫に支えられ、供給量の増加と価格の低下につながり、3.0%増の 1513 百万トンと過去最高を更新すると予測される。
- 2023/24 年の世界のコメ生産量は 1.3%増の 5 億 2350 万トンと予測され、国際貿易量は数量ベースで 4.3%減の 5 億 3600 万トンと予測される。予想される生産量の増加は、高い生産者価格、肥料コストの緩和、継続的な政府支援策によるものである。
- 油糧種子、生乳、砂糖の世界生産量はすべて拡大すると予想され、食肉も同様であるが、豚と牛の食肉量は 2023 年にはわずかに減少すると予想される。
- 水産物の生産量も 2023 年に拡大すると予想されるが、これは捕獲漁業が縮小しているため、水産養殖の生産量が増加すると予想されるからである。

### FAO「食料アウトルック」とは

年に 2 回発行され、穀物、植物油、砂糖、肉、乳製品、魚など、世界の主要な食料品の市場需給の動向を FAO が検証している。また、食料品の先物市場や輸送コストの動向についても言及している。

### 参考資料:

(\*1)<https://www.fao.org/3/cc3020en/cc3020en.pdf> Food Outlook. June 2023. Food and Agriculture Organization of the United Nations.

(\*2)<https://www.fao.org/newsroom/detail/fao-food-outlook--global-output-set-for-expansion--but-declining-imports-by-the-most-vulnerable-countries-are-a-cause-for-concern/en>

[concern/en](https://www.fao.org/newsroom/detail/fao-food-outlook--global-output-set-for-expansion--but-declining-imports-by-the-most-vulnerable-countries-are-a-cause-for-concern/en) FAO Food Outlook: Global output set for expansion, but declining imports by the most vulnerable countries are a cause for concern.

(資料閲覧:2023 年 6 月 15 日)

(Jミルク 国際グループ)